

# 合格通信

今  
月  
の  
名  
言

たいていの学生は、教科書について考えて居る。宇宙に於いて、これほどにも乾燥無味の書物はないと。けれどもまた、必ずしもそうでないという日が来るであろう。

荻原 朔太郎 詩人

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。



## 名曲喫茶 荻窪篇

途中下車してよく行くところのひとつが《名曲喫茶》でした。クラシック音楽を聴かせる喫茶店です。昭和 30 年～40 年前半までが隆盛期だったようで、その当時レコードは高価な物で、大卒の初任給が 1 万円のころ LP が 2,000 円だったそうです。ですからおいそれと買えない音楽ファンが名曲喫茶や JAZZ 喫茶に来て音楽を聴いていたそうなのです。徐々に所得が上がり、レコードが身近なものとなるとやがて音楽喫茶からお客が離れていき、店側はその対応策として高級オーディオを導入して客寄せを計ったようです、それも一般家庭に普及すると音楽喫茶は急激に衰退していきました。僕が上京したころはまだまだあったのですが、徐々に一軒二軒と廃業していきました。

名曲喫茶はコーヒーの値段が普通の喫茶店より安いところが多く、音楽を聴きやすいように、たいていのところがテーブルはすべてスピーカーに向かって一方向に並べてあります。どこの駅にあるわけではないので、行く前に情報誌<アングル別冊>でチェックしてから出かけます。

中央線沿線のメジャーな駅にはたいていひとつはあったのです。そのなかでも良く通ったのが荻窪駅南口にある「ミニヨン」で、なぜかというところ 3 度目の下宿が荻窪 1 丁目ここから自転車で 5,6 分のところにあったのです。午後とか夜に、暇なときなど週 1 回ぐらい通って常連となっていました。

このママさんというのが当時 70 歳ぐらいで、元学校の先生をしていたらしいのですが、とんでもなくアイソが悪く（商売のやる気があるのだろうか？）と思ってました。



ある夜、暇だったので、当時の新譜だったクラディオ・アバド指揮シカゴ交響楽団のベルリオーズ「幻想交響曲」の買ったばかりのレコードを自前のしょぼいオーディオよりはミニヨンのオーディオの方がいいに決まっているので（よーしこれをもって行ってかけてもらおう）と行った時の話です。ボク「これかけてもらえませんか」ママさん「あ～50 分かかる」ボク「・・・」蹴飛ばしてやろうかと思いました。

5 年前ほどでしょうか、雑誌か何かでこのママさんが 90 歳近くまで喫茶店を切り盛りして亡くなったことを知りました。合掌。